

虚血性脳血管障害例の

再発リスクと

脳血流SPECTによる評価

NOV. | 11 | 20 12:10
金 12:55

千里ライフサイエンスセンター
B会場 (5F サイエンスホール)

〒560-0082
大阪府豊中市
新千里東町1-4-2

座長

飯田 秀博 先生

国立循環器病センター研究所
放射線医学部 部長

演者

中川原 譲二 先生

医療法人医仁会 中村記念病院
脳神経外科 診療本部長

共催 第21回日本脳循環代謝学会総会
日本脳神経核医学研究会
日本メジフィジックス株式会社

虚血性脳血管障害例の再発リスクと 脳血流SPECTによる評価

虚血性脳血管障害例の再発予防は、大規模臨床研究の結果から、危険因子に対する薬物治療を厳格に継続しなければならぬ。2003.1.1～2008.12.31の間に当院に入院となった非塞栓性脳梗塞症例の危険因子を調査したところ、アテローム血栓性脳梗塞(1,201例)では、高血圧症が63%、Ⅱ型糖尿病が41%、高脂血症が37%に認められ、2つ以上の危険因子を有する症例は35%であり、ラクナ梗塞(1,313例)でも、高血圧症が64%、Ⅱ型糖尿病が37%、高脂血症が37%に認められ、2つ以上の危険因子を有する症例は34%に達した。これまでの急性期脳梗塞に関する多施設調査研究(J-MUSIC)に比較して、Ⅱ型糖尿病と高脂血症の頻度が明らかに上昇し、危険因子の多重化に対する対応がこれまでも増して必要であり、再発予防のための薬剤の選択が従来よりも重要となっている。高血圧症に対しては、新規の糖尿病や心房細動を抑制するACE阻害薬やARBなどが第一選択薬として推奨され、Ⅱ型糖尿病に対しては、インスリン抵抗性改善薬であるピオグリタゾンの再発抑制効果が注目されている。高脂血症に対しては、スタチンに再発抑制効果が認められ、その効果はⅡ型糖尿病において顕著である。また、抗血小板剤では、チエノピリジン系やシロスタゾールなどが危険因子の多重化している症例に対して高い再発抑制効果を有することが明らかとなっている。脳梗塞の再発予防効果が明らかにされたこれらの薬剤には、類似のpleiotropic effectsである脳血管内皮機能の改善作用が認められ、脳梗塞の再発予防効果として薬剤による脳循環制御作用の改善が想定される。最近の研究から脳循環制御作用の改善に関する臨床指標として、acetazolamide負荷に対する脳循環予備能の評価が有望であり、その評価は、測定精度が改善した脳血流SPECT検査(DTARG, QSPECT)によっても可能となりつつある。脳血流SPECTを用いた臨床薬理学的研究の進展が期待される。

中村記念病院 脳神経外科

中川原 譲二

About JCNN

日本脳神経核医学研究会について

日本脳神経核医学研究会は、脳核医学に関する基礎および臨床研究の推進とその普及をはかり、それを通じて我が国の学術文化の発展に寄与し、国民の保健と福祉の向上に資すると共に、国際協力につとめることを目的としています。

脳核医学の発展には、放射線科や核医学科において検査を実施する医師や技師に加えて、脳神経外科、神経内科、精神科などで実際の診療に携わる臨床医、装置や医薬品の開発を行う物理工学、薬学、化学などの基礎研究者の協力が不可欠です。本研究会は、これらの学際的な領域の医療関係者や研究者を対象に、セミナーや講演会などを開催して、脳核医学の幅広い普及をめざします。また、脳核医学に関する多くの課題について議論する場を設定して、検査法の確立、臨床使用のためのガイドラインの作成、国際的な枠組みの中で情報交換などを行っていきます。

研究会の会員相互の情報交換には、インターネットを活用して幅広く情報を提供していきたいと考えています。本研究会が主催、共催する行事や関連研究会の案内もホームページでご覧いただけます。会員が情報を共有するとともに、外部に向けて発信できる新しいタイプの研究会を指向して活動を行ってきたいと考えています。この趣旨にご賛同いただき、脳核医学の発展のために、是非本研究会にご参加下さい。

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www2.convention.co.jp/jcnn/>

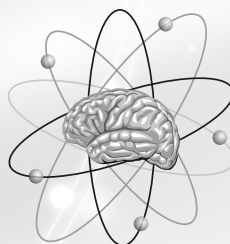
日本脳神経核医学研究会事務局

〒100-0013 千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞ヶ関ビル18F

日本コンベンションサービス株式会社内

E-mail: infojcnn@convention.co.jp

Tel: 03-3508-1214 Fax: 03-3508-1302



JCNN